

目次

この環境報告書について	3
トップメッセージ	4

環境戦略

世界の動きとキリンのアクション	8
マテリアリティ特定	9
キリングループ環境ビジョン2050	10
ポジティブインパクトを目指すスタートダッシュ	11
TCFD提言に基づく開示	12

指標と目標

期待するアウトカムと主な目標、進捗状況、CSVコミットメント、外部評価	20
-------------------------------------	----

活動内容

パフォーマンス・ハイライト	25
生物資源	26
取り組みの概要	27
紅茶農園	28
ブドウ畑	30
コーヒー農園、ホップ畑、植物大量増殖技術、パーム油、紙・印刷物、フードウェイスト削減	32
キリン中央研究所	33
生物資源のグラフ	35

水資源	36
取り組みの概要	37
水リスク・水ストレス評価	38
生産地の水源地保全	39
自社拠点の水源地保全活動、製造、排水	40
水資源のグラフ	43
容器包装	44
取り組みの概要	45
持続可能なPETボトル	46
持続可能な紙容器	47
リデュース、リユース、リサイクル、社会とともに	48
パッケージイノベーション研究所	55
容器包装のグラフ	56
気候変動	58
取り組みの概要	59
[SBT1.5°C] 目標・世界最高水準のエネルギーシステムを目指す	60
RE100・使用電力の再生可能エネルギー比率100%を目指す	61
原料、容器、製造、物流、販売、再生可能エネルギー、政策提言	62
キリングループのエンジニアリング	68
気候変動のグラフ	70

ガバナンス・リスク管理

コーポレートガバナンス体制	74
リスク管理体制	75
環境経営体制	76
持続可能な調達	79
環境教育	80
ステークホルダー・エンゲージメント	81
政策提言につながる自主的な参画	84

資料・データ編

環境方針、プラスチックに関する方針、生物資源に関する方針、商品開発での環境配慮	87
環境データ算定方法、環境会計、マテリアルバランス、水資源、容器包装、気候変動、グリーンボンド、廃棄物削減と汚染の防止、化学物質管理、サイトデータ、環境マネジメント認証取得状況	92
環境への取り組みの歴史、その他の情報開示	108
GRI内容索引、TCFD対照表、CDSB対照表、SASB対照表、環境報告ガイドライン2018年（環境省）版報告事項索引	117
第三者保証報告書	125

この環境報告書について

編集方針

キリングroupは日本、オセアニア、アジアを主要事業地域として、「食領域（酒類・飲料事業）」「医薬領域（医薬事業）」「ヘルスサイエンス領域」の3つの領域で事業を行っています。売上高の約65%は、「国内ビール・スピリッツ」「国内飲料」「オセアニア総合飲料」によるものです。

キリングroupは、CSV（社会と共有できる価値の創造）を事業運営の根幹に据えて、価値創造のサイクルを回し続けることで、持続的な成長を目指しています。その中で重点的に取り組む社会課題の1つとして環境を設定しています。

この報告書は、このようなキリングroupの事業の特性と環境の取り組みの位置付けを考慮して、編集しています。

※「レインフォレスト・アライアンス認証茶葉を使用した商品」（P28）および「使用済みPETボトル店頭回収」（P54）を追記して、2021年7月末に第二版として開示しています。
※ 21年8月以降の活動や各種データ、改訂になった方針類については、キリンホールディングスの環境サイトをご覧ください。

企業情報開示場所

本報告書を含むキリングgroupの企業活動情報は、株主や投資家の関心から、お客様をはじめとする地域社会の幅広いステークホルダーの皆様に関心に応じた、多様な情報を開示しています。

キリンホールディングス
社会との価値共創（CSV）サイト
<https://www.kirinholdings.com/jp/impact/>



KIRIN CSV REPORT（統合報告書）
<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/integrated/>



キリンホールディングス 環境
<https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/>



ライオン サステナビリティサイト
<https://lionco.com/our-commitments/our-sustainability-approach/>



キリングgroup環境報告書
https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/env_report/



協和キリン サステナビリティサイト
<https://www.kyowakirin.co.jp/csr/>



報告対象期間

2020年度（2020年1月～12月）

必要に応じて過去3年～5年程度の推移データを掲載しています。

報告対象の組織（2020年度）

事業	会社
国内ビール・スピリッツ事業	キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、永昌源麒麟啤酒（珠海）有限公司
国内飲料事業	キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社（北海道、仙台、東京、中部、関西）、キリンビバックス、東海ビバレッジサービス
オセアニア総合飲料事業	ライオン、ニュー・ベルジャン・ブルーイング
医薬事業	協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和発酵麒麟（中国）製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research
その他事業（全社を含む）	メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、ミャンマー・ブルワリーインターフード、ベトナムキリンビバレッジ、フォアローゼズディスティラリー、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、キリンホールディングス、タイ協和バイオテクノロジーズ、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングroupロジスティクス

※ライオンは2021年1月25日に飲料事業部門の株式を譲渡したことを発表済

環境データ算定方法

環境データの算定方法については（→P.92～P.94）

参照したガイドライン

- GRIスタンダード
- 環境省 環境報告ガイドライン（2018年版）
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）勧告（2017）
- CDSBフレームワークv2.2（2019年12月版）
- SASBスタンダード（2018年10月版）食品・飲料セクター/アルコール飲料産業およびノンアルコール飲料産業

（→P.117～P.124）

本環境報告書に掲載された見直し、目標、計画など将来に関する記述については、資料作成時点の当社の判断に基づくものですが、さまざまな要因の変化により記述とは異なる結果となる不確実性を含んでいます。リスクと機会については、必ずしも投資家の判断に重要な影響を及ぼすリスク要因に該当しない事項も、積極的な情報開示の観点から記載しています。キリングgroupは、事業に関連したさまざまなリスクを把握・認識した上で、リスク管理体制を強化し、その予防・軽減に努めるとともに、リスクが顕在化した場合の対応には最善の努力をいたします。

環境経営でリーダーシップを発揮し続け、「環境立国」に貢献します

はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、罹患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、日々感染抑制に努力されている政府、自治体の皆様、感染者の診断・治療に日夜尽力されている医療関係者の皆様に深く敬意を表します。

当社が実施している「気候関連財務情報開示タスクフォース」(TCFD)の提言に基づくシナリオ分析では、地球温暖化によって感染症に晒されるリスク人口が増える可能性が高いことがわかってきています。キリンが発見したプラズマ乳酸菌は、日本で初めて「健康な人の免疫機能の維持をサポート」する機能性表示食品として消費者庁に昨年届出受理されました。原料である農産物や水資源への気候変動による影響に備えるだけではなく、発酵・バイオの先進技術を活用することで健康リスクといった社会課題の解決と事業の成長の両立につなげていきたいと考えています。

キリングループは昨年2月、環境についての長期戦略を「キリングループ環境ビジョン2050」に改定し、目指す姿を従来の「ネガティブインパクトの最小化」から「ポジティブインパクトの創出」へと大きく舵をきりました。優先課題である「気候変動」「容器包装」「生物資源」「水資源」という4つの領域で、実効性のある取り組みを進めています。

「気候変動」では、同年11月に電力の再生可能エネルギー

100%を目指すイニシアチブ「RE100」に加盟し、12月にはグループのGHG中期排出量削減目標で「SBTi」の新基準「SBT1.5℃」目標の認定を取得しました。また、10月にTCFDから刊行されましたシナリオ分析ガイダンスの策定に際しては、日本企業として唯一、また酒類企業としても唯一、世界15社の1社としてインタビューで意見を述べさせていただきました。

「容器包装」では、PETボトルのサーキュラーエコノミー確立のため、三菱ケミカル社とケミカルリサイクル実用化の共同プロジェクトを昨年立ち上げました。また本年は、廃棄プラスチックの問題解決にグローバルで取り組む非営利団体「Alliance to End Plastic Waste」に、日本の食品企業で初めて参画しました。

「生物資源」では昨年国内飲料事業で紙容器をFSC®認証紙使用率100%に転換し、本年2月からは「水資源」も含めた自然資本の利用についての科学的な目標設定のアプローチを開発するグローバル組織「Science Based Targets Network」のコーポレート・エンゲージメント・プログラムに、日本の食品・医薬品業界として初めて参画しています。

私は日本政府の掲げる「脱炭素社会の実現」は、「所得倍増計画」や「日本列島改造論」に匹敵する国家の長期政策ビジョンだと捉えています。自然と人類の共生は、世界が認める日本の理念です。キリングループは環境経営においてリーダーシップを発揮し続けることで、人類と自然が共生する日本の「環境立国」に貢献するとともに、世界のCSV先進企業を目指してまいります。



キリンホールディングス
代表取締役社長
磯崎 功典



事業概要

グループ経営理念

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよるこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します

2027年の目指す姿

食から医にわたる領域で価値を創造し、世界のCSV先進企業となる

“One KIRIN” Values



熱意 Passion
自由な発想で、進んで新しい価値をお客様・社会に提案することへの我々の熱い意志。会社やブランドに誇りを持ち、目標をやりきる熱い気持ち



誠意 Integrity
ステークホルダーの皆さまのおかげでキリングroupは存在しているということへの感謝の気持ち、謙虚な気持ちで確かな価値を提供し、ステークホルダーに貢献するという誠実さ



多様性 Diversity
個々の価値観や視点の違いを認め合い、尊重する気持ち。社内外を問わない建設的な議論により、「違い」が世界を変える力、より良い方法を生み出す力に変わるという信念

会社概要

商号 キリンホールディングス株式会社
Kirin Holdings Company, Limited

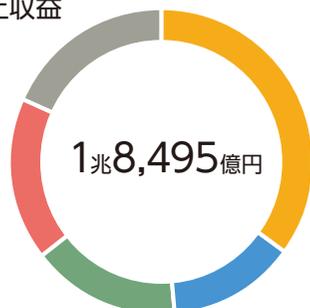
設立 1907年(明治40年)2月23日
※2007年7月1日持株会社化に伴い「麒麟麦酒株式会社」より商号変更

本社所在地 〒164-0001
東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス

資本金 102,045,793,357円

従業員数 31,151人
※キリンホールディングス連結従業員数、2020年12月31日現在

連結売上収益



- 国内ビール・スピリッツ 35.2%
- 国内飲料 13.6%
- オセアニア総合飲料 15.8%
- 医薬 17.2%
- その他 18.2%

連結事業利益



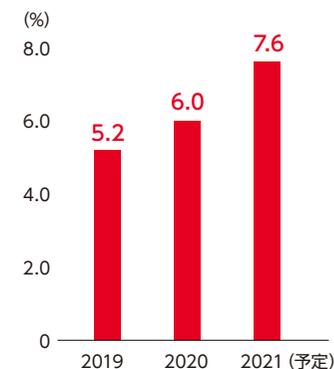
- 国内ビール・スピリッツ 36.4%
- 国内飲料 10.5%
- オセアニア総合飲料 10.6%
- 医薬 28.4%
- その他 14.1%

セグメント	食領域	医領域	ヘルスサイエンス領域	会社
国内ビール・スピリッツ	●			キリンビール
国内飲料	●			キリンビバレッジ
オセアニア総合飲料	●			ライオン
医薬		●		協和キリン
その他	●		●	メルシャン ミャンマー・ブルフリー コーク・ノースイースト 協和発酵バイオ 上記以外

財務KPI

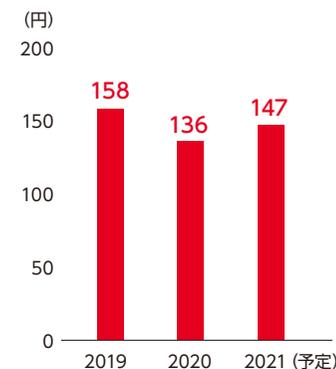
資本効率性 ROIC

コロナ禍の影響を受け2019年中計の目標である10%には届かない計画。



収益性・成長性・平準化EPS

事業利益の減少が平準化EPSを押し下げ、2019年中計の目標である年平均成長率5%以上は未達。



研究開発力とエンジニアリング力で、ポジティブなインパクトを創出します

キリングroupでは、2017年からTCFDのシナリオ分析を継続的に発展させています。シナリオ分析で得られた気候変動の事業へのインパクト評価に基づき、昨年長期環境ビジョンを改定しました。SBT1.5℃への更新、RE100への参画といった緩和策や、レインフォレスト・アライアンス認証取得支援のベトナム・コーヒー農園への拡大といった適応策も、シナリオ分析で得た知見を具体化したものです。

キリングroupは、強みである研究開発力とエンジニアリング力の活用を柱とした、独自の環境戦略を展開しています。

世界の食品メーカーとしては最大級の容器包装の開発機関であるキリンのパッケージイノベーション研究所は、これまで容器包装の軽量化による材料使用量・GHG排出量削減とコスト低減のCSVで大きな成果を挙げてきました。現在は、PETボトルのサーキュラーエコノミーを実現するため、三菱ケミカル社と共同でケミカルリサイクルの実用化に取り組んでいます。天然ゴム代替候補の植物の生産をブリヂストン社と共同研究するにあたり、優良品種の種子を大量に得ることへの貢献が期待されている「袋型培養槽技術」は、キリンの生産技術です。キリン中央研究所の植物大量増殖技術の実用化により、今後の地球温暖化に適応した種々の植物系統についても、その開発と短期間で作付面積を拡大することに貢献できるものと期待されています。

温暖化に伴う感染症リスクといった社会課題に対しては、ヘルス

サイエンス事業で貢献することで事業機会もあると考えていますが、免疫機能で昨年初めて機能性表示食品として消費者庁に届出受理されたプラズマ乳酸菌も、キリン中央研究所の成果です。工場での環境負荷低減や環境新技術導入には、製造工程や生産技術を熟知した上でのエンジニアリングが必要です。キリングroupでは、各社に配置されたエンジニアリング部門のほかに、総合エンジニアリング会社のキリンエンジニアリング社を保有しており、それら連携による機動力や設備技術力を強みとして、環境施策の迅速な推進を支えています。

グループの原点であるキリンのビール事業には、「生への畏敬」という醸造哲学があります。原料である農産物だけではなく、製造プロセスである発酵も生き物の恵みに支えられている、という思想です。キリンが強みとする技術力も農産物や酵母から謙虚に学ぶことから培われたものであり、環境をパーパスに据えるキリンの組織風土も、ものづくりの礎である自然を継承すべく養われたものです。

今後、事業ポートフォリオが組み変わることがあっても、キリンが発酵・バイオの技術を活用し、自然の恩恵にあずかって事業活動を行っていくことに変わりはありません。「キリングroup環境ビジョン2050」の実現に向け、研究開発力、エンジニアリング力、NGOや地域の方々とのネットワーク力を基に、人と社会と自然環境にポジティブなインパクトを創出できるよう、挑戦を続けてまいります。



キリンホールディングス株式会社
常務執行役員
(CSV戦略担当、グループ環境総括責任者)
溝内 良輔

キリングroupの価値創造モデル

グループ経営理念

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよるこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します

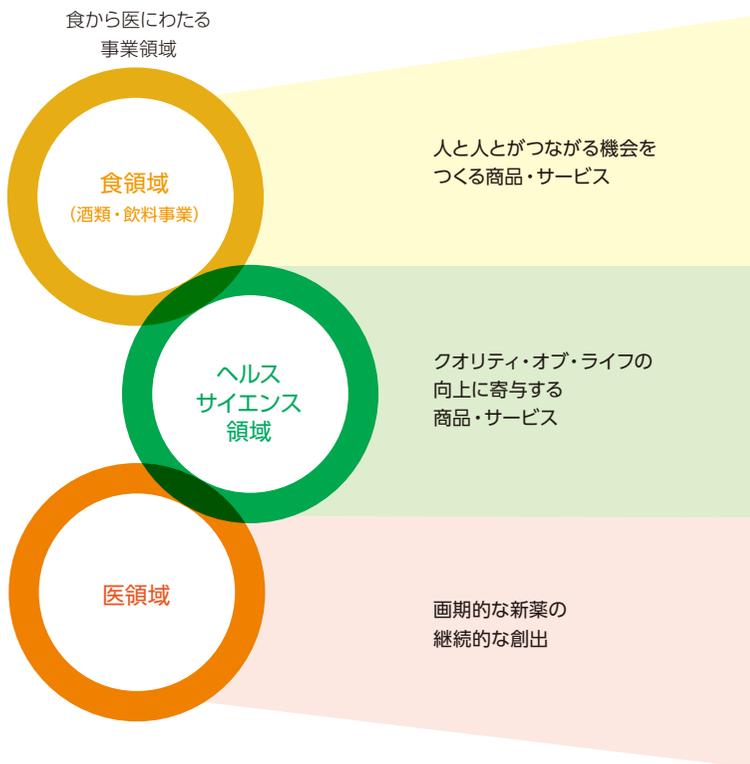
INPUT

イノベーションを生み出す基盤



BUSINESS

社会課題を成長機会としてシナジーを生かして取り組む事業



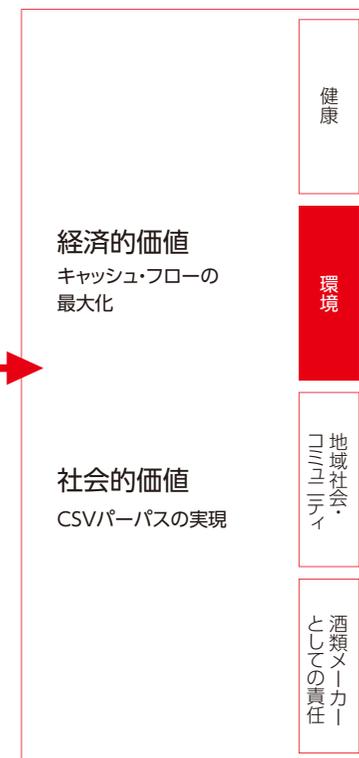
OUTPUT

基盤を生かし、事業を通じて社会課題の解決につながるイノベーションを生み出す



OUTCOME

社会に還元する価値



価値創造を支えるガバナンス